

1 研究テーマ

生活科・総合的な学習の時間において、

学ぶ喜びを味わえる授業づくりはどうあったらよいか。

2 研究内容

期 日…平成22年11月17日

会場校…森上小学校

教科及び単元名…生活科 「プッチーがよろこぶウサギ広場をつくろう」

授業学年及び授業者…2学年 藤澤 由紀子 教諭

- (1) 子どもが自ら関わりたくなるための素材について考えた。
- (2) 「もの、こと、人」と関わる子どもの姿を見合い、考えを出し合う中で、こどもの学ぶ喜びについて考えた。
- (3) 子どもが学ぶ喜びを味わうための支援、評価について考えた。

3 研究の成果

<素材について>

子どもたちが自ら関わりたくなる素材開発として、推進委員会では、今年度、飼育学習について考えた。そして、素材をウサギとして、推進委員自身がウサギの遊び場づくりやってみたり、ウサギと触れ合ってみたりしながら、子どもが思わず動き出す学習について考えていった。そして、意外と身近にあるのを使ったり、日々の子どもの姿の中にヒントがあるのではないかと考えた。同時に、身近にある素材に関わる子どもたちの学びとはどういうものかも考えた。そして、生活科の学習においてどんなことを考え教材化していく事が大切なのかを考えていくことができた。

<実際の姿から考えを出し合うこと>

当日の授業では、「小屋を半分に分けて、中で二つにするグループ」、「もう一つ的小屋を作るグループ」、「囲いを作って遊ばせよう」のグループに分かれて、ウサギのために様々な活動を行った。子どもたちは、ウサギに寄り添う普段の生活の延長として、よりウサギが喜ぶであろう生活を考え、子ども自身の願い達成に向かって学習を創っていくことができた。

研究会では、グループに分かれて実際の子どもたちの姿を話し合った。そこで、

○子どもたちの自由な活動の中にこそ本当の学びがあるのではないか。

○子ども自身が、感じ・思い・考えたことを実際にやっけていく学習を繰り返すことで、自ら学び考えるという自立の基礎となる学び方を、子どもたちは身につけていくのではないか。

大きくこの二点が見えてきたように思う。